

## 医療経営士の取り組み

番場省吾 さん

株式会社ドゥーダ代表取締役 / ダリ・マネージメント株式会社代表取締役

# 同じマインドを持つ仲間が 集い・情報共有する 場をつくる

### Point

1. 中心となるメンバーを人選。同じ志を持つ仲間が集う場をつくる
2. 一方的な情報収集ではなく、参加者同士の情報共有を目的とする
3. 共通のマインドを持つ病院関係者を引き合わせる役割を担う

### 失敗経験を活かして 北海道LCO研究会を設立

LCO（ローコストオペレーション）コンサルティングを行う株式会社ドゥーダと、SPD導入支援を手がけるダリ・マネージメント株式会社を経営し、医療現場のコスト削減に取り組む番場省吾さん。2003年の創業当時から、病院間の連携、特に購買部門の交流の場がほとんどないことに疑問を持ち、同社のユーザーなどを集めた会合や勉強会などを企画・実行してきた。

「そもそも、医療機関におけるLCOを推進するうえでの課題の一つが病院間の連携不足であると思っていました。医療機関の現場職員同士が自ら主導して連携を模索するのが難しいなら、企業に所属している私が第三者の立場でネットワークをつくってはどうかと思い、活動をはじめました」と、番場さんは振り返る。

てしまうなど、あまりうまくいかず、長続きしなかったという。何度かの失敗を経て、LCO推進のための連携体制づくりは難しいのかと諦めかけていたが、番場さんの周囲には他院との情報共有・連携を望む病院職員がいたことから、5年前に「北海道LCO研究会（以下、LCO研究会）」を設立した。

設立に当たっては、過去の失敗経験から得た教訓を活かした。

たとえば、公立病院のみを対象とした勉強会では、人事異動などに伴って慣例・付き合いで参加する病院が次第に増加し、会が形骸化してしまったことがあるため、設立母体や地域を細かく限定することなく、垣根を越えた集まりとした。また、過去に趣旨を理解していない参加者が「こうした集まりに何の意味があるのか」「参加することで具体的にどんなメリットがあるのか」といったネガティブな発言をして会のモチベーションを下げてしまうという経験もあったため、意欲の高い有志のメンバーを組織して小規模にスタートし、会の目的などを共有しながら発展させていくことを目指し

目次

第1部 (15時00分～17時30分)

- ① 医療機器保守費の削減手法
- ② 試薬の購買、価格分析方法
- ③ 医療ガス
- ④ 材料委員会の運営方法について
- ⑤ LCO会員病院間におけるP.B.、共同交渉について
- ⑥ リナックス型ベンチマークシステムの稼働について
- ⑦ フリーテーマ (各病院の近況、情報共有、今後議論したいテーマ、等)

第2部 (17時45分～18時45分)

外部講師による講演会

講師：公立野辺地病院 事務長 接待 陸敏 氏

題目：公立病院改革の現状と今後～病院経営改善に向けた事務職の役割～

北海道LCO研究会の資料。テーマ別の情報交換のほか、講演が行われる



病院間の連携構築のきっかけづくりを行う番場省吾さん

た。

「最初は私と、5病院の購買担当という有志のメンバーでスタートしました。同じマインド・志を持つ人が集まったので、ネガティブな発言も出ず、気持ちよく研究会を開催することができました。それが奏功し、5年が経過した今も継続しているのだと考えています」と番場さんは言う。

最初は年4回開催していたが、ある程度関係性が構築されてきたこともあり、現在は年2回の開催となっている。参加病院の会議室で講演会や情報共有を行った後、会食の場を持つ。打ち解けた雰囲気の中でさらなる信頼関係の醸成を図っている。

### 目的を叶えるために ルールづくりも行う

番場さんがLCO研究会を設立する際に参考にしたのが北海道医事研究会の活動だ。

「北海道医事研究会にはさまざまな病院の医事課職員が参加し、活発に活動しているのを知っていました。幸いなことに世話人の方が知り合いだったので相談したところ、会の運営やルールづくりにつ

いて多くのアドバイスをもらいました」と語る。

北海道医事研究会の運営を参考にして策定したのが、会則だ。▽目的、▽定例会の開催、▽メンバーリスト、▽会員および入会、▽会費、▽退会、▽事務局、▽会のルール——の項目別に規則を設けている。

この理由を番場さんは次のように説明する。

「LCO研究会を、単なる懇親のための場ではなく、実りのある情報共有・連携のための場にするには、一定のルールが必要だと思ったので、会則を策定しました。特にLCOをテーマにしていると、価格情報等の情報収集が目的になってしまふケースが少なくないのですが、それが目的になってしまふと参加者の疑心暗鬼につながるため、そうならないようにするために、会の運営について配慮する必要があります、それを明文化したのが会則だと言えます」

目的・ルールを明確化した場をつくることを通じて、同じ志を持つ仲間づくり、さらにそれを通じて参加者のモチベーションアップに貢献している。

### 新人育成や公立病院改革を 目指した連携推進にも意欲

顔と想いの見える連携づくりに向けた自身の役割について番場さんは「コンサルタントという仕事の性質上、さまざまな病院関係者と交流できる立場にあるため、そのなかで知り合ったメンバーが同じ人たちを引き合わせる役割を果たしていきたい」と強調する。

実際、そうして知り合った別の地域の病院関係者をLCO研究会などに講演などで招くことも珍しくない。メンバーを固定化せず、新しい仲間を増やしていくことで、会の活性化にもつながる。

「LCO研究会のメンバーは次世代のリーダーになる方々なので、今後はLCOという枠組みにとらわれず、さまざまな知見が共有できる機会に発展させたいです。また、個人的には新人職員の育成や公立病院の事務職員改革といったテーマに関心を持っているので、こうした分野での連携・ネットワークづくりにも取り組みたい。医療界全体にとってプラスになる活動をしたと思っています」と番場さんは意欲を見せる。